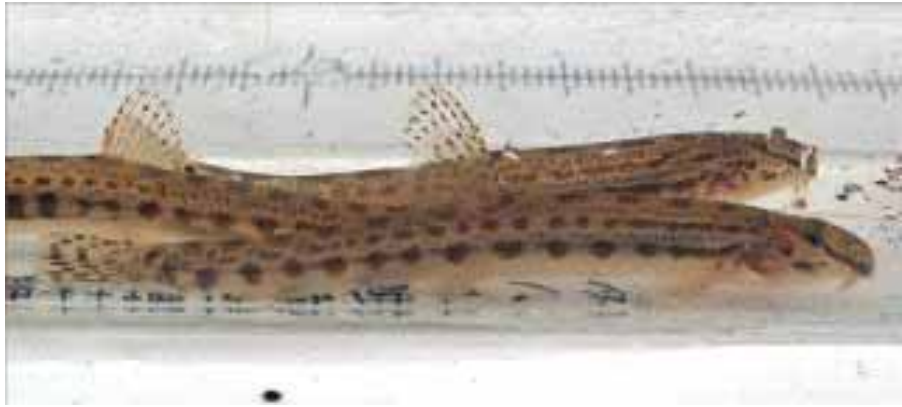


種名	<u>シ マ ド ジ ョ ウ</u> <u>Cobitis biwae</u> 
分類	ドジョウ科シマドジョウ亜科シマドジョウ属
俗称	カワドジョウ・ササドジョウ (日本各地)、スナメ (関東地方中北部)、タカノハドジョウ (山陰)、タケドジョウ (中部、関西)、カンナメ (岐阜)
形態的な特徴	体は円筒形で細長く、体色は肌色地で体側に黒丸の模様が8～16個並ぶ。黒丸がつながって帯のようになる個体もある。背鰭、尾鰭にも黒色斑紋が不規則に並ぶ。ヤマトシマドジョウに似るが、骨質盤の形状で判別できる。口ひげは3対ある。全長は14cmほどになる。
分布	日本固有種で山口県西部を除く本州と四国に分布する。伊豆半島、紀伊半島南東部、四国南西部など部分的に分布しない地域もある。
繁殖行動	産卵期は4～6月頃で、湧水やそれを水源とする比較的水のきれいな細流に遡上し、卵は水生植物の根や茎に産みつけられる。驚くと砂の中に隠れることもある。
生息場所	比較的水がきれい流れの緩やかな砂底あるいは砂礫底の小川や、河川の中流から下流域上部に生息する。
食性	底生性の小動物や有機物を砂とともに吸い込んでエサだけを漉しとって食べる。
生息環境への配慮事項	水質汚染や河川改修などにより本種が生息できる水質と本種が好む砂礫底の河川が減少したため、生息適地が奪われ減少した。本種が何よりも好むのは砂礫底である。そのため本種が生息するためには砂礫の河床を残すか、改修後に砂礫が流れてきて河床にたまるように、流れが緩やかになる部分を作ることである。また、本種が改修などの間に逃げ込んでいた水系から戻り、産卵のために細流へ遡上することができるようにあまり段差のない水系のつながりを持たせることが重要である。
その他	

引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変